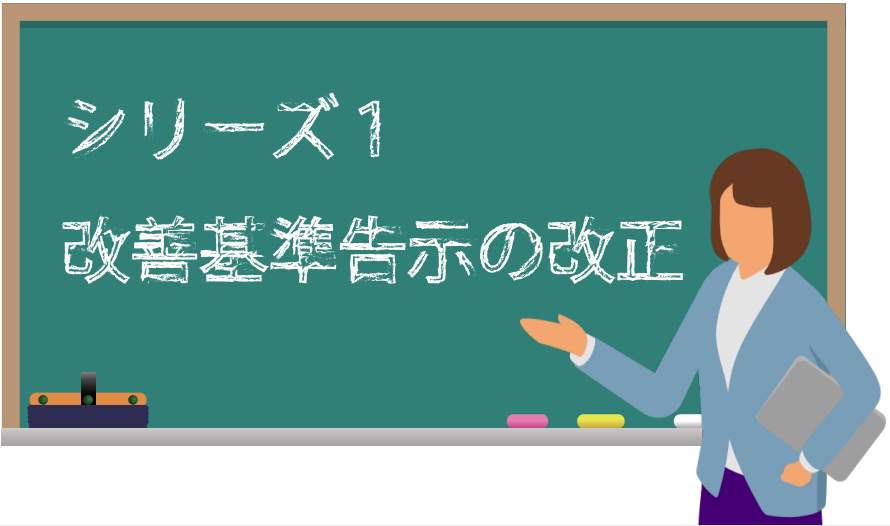


# トラック運転者の「改善基準告示」は改正されます

## その①

更新日：2023.1.11

法改正



改善基準告示の改正

改正点は？

### 改善基準告示の改正

厚生労働省は、令和４年１２月２３日「改善基準告示（自動車運転者の労働時間等の改善のための基準（平成元年労働省告示第７号））」を改正しました。適用は、令和６年４月１日です。

貨物運送事業では、他の業種に比べて長時間労働であり、長時間労働に起因する過労死などの労災も多いことから、長時間労働の是正し、自動車運転者の労働環境を改善するために、業界独自の告示が出されていました。それが改善基準告示です。

今回、働き方改革による労働基準法の改正により、自走車運転者の業務について令和６年４月から時間外労働の上限規制（年９６０時間）が適用されますが、改善基準告示についてもこの上限規制を踏まえた改正が行われたものです。

主な改正点は、次のとおりです。

### 改正点は？

	改正前	改正後	改正後の例外
1年・1ヶ月の拘束時間	1年 3, 516 時間以内	1年 原則 3, 300 時間以内	労使協定により、次のとおり延長可（①②を満たす必要あり） 1年 3, 400 時間以内
	1ヶ月 293 時間、最大 320 時間 （労使協定により、年間6ヶ月までは、年間3, 516 時間を超えない範囲内で）	1ヶ月 原則 284 時間以内	1ヶ月 310 時間以内（年6ヶ月まで） ① 284 時間超は連続3回まで ② 1ヶ月の時間外・休日労働時間数が100 時間未満となるよう努める
1日の拘束時間	1日 原則 13 時間、最大 16 時間 （15 時間を超える回数は、1 週間に2 回以内）	13 時間以内 （上限 15 時間、14 時間超は週2 回までが目安）	・宿泊を伴う長距離貨物運送（※）の場合16 時間まで延長可（週2 回まで） ※ 1 週間における運行がすべて長距離貨物輸送（一の運行の走行距離が450km 以上の貨物運送）で、一の運送における休息期間が住所地以外の場所におけるものである場合
1日の休息期間	継続8 時間以上	継続11 時間以上与えるよう努めることを基本とし、9 時間を下回らない	・宿泊を伴う長距離貨物運送（※）の場合、継続8 時間以上（週2 回まで） ・休息期間のいずれかが9 時間を下回る場合は、運行終了後に継続12 時間以上の休息期間を与える
運転時間	2日平均1日 9 時間以内 2週平均1週 44 時間以内	現行どおり	
連続運転時間	連続運転時間 4 時間以内	連続運転時間 4 時間以内 ・運転の中断時には、原則として休憩を与える（1 回おおむね連続10分以上、合計30分以上） ・10分未満の運転の中断は3回以上連続しない	・SA・PA等に駐車できないことにより、やむを得ず4 時間を超える場合、4 時間30分まで延長可
休日労働	休日労働は、2週間に1回を超えない 休日労働によって拘束時間の上限を超えない	現行どおり	

1ヶ月の拘束時間の上限が、原則で 284 時間となり、現行より 9 時間短くなります。

これは、過労死ラインと言われる月 80 時間の時間外労働を前提とし「275 時間」の拘束時間」と、月に 1 日の休日労働で「9 時間」の拘束があったものとして月を「284 時間」として算出されています。また、年間の 3,300 時間については、この「275 時間」の拘束時間をベースに、12 ヶ月で「3,300 時間」としたものです。

今回は、分割休息などの特例、予期しない事象への対応に関して案内します。

厚生労働省：

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou\\_roudou/roudoukijun/gyosyu/roudoujouken05/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudoukijun/gyosyu/roudoujouken05/index.html)

### 執筆



**Grow Up**  
Social Insurance Labor-Consultant Office  
**グローアップ社会保険労務士法人**  
特定社会保険労務士  
山下智美